

ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2025年9月29日発行 【再刊第39号】

今号の話題

- インディアン水車まつり盛会
サケ鍋、釣り堀大人気
- 空と川のアウトドアフェス
多彩なイベントで街を盛り上げ
- 市民夏まつりが閉幕
納涼盆踊り大会でフィナーレ

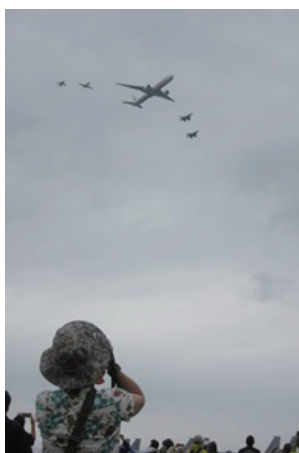
混合航過、機動飛行で観衆魅了

千歳のまちの航空祭開催

全国から航空ファンが来場

曇り空ながら盛況

5機による異機種混合航過飛行がファンの目を引きつけました



基地内には多くの来場者が詰めかけました。F15戦闘機による迫力満点のオープニングフライトに続き、同戦闘機、B777、U125などによる異機種混合航過飛行を披露し、観衆の注目を集めました。

航空自衛隊千歳基地による「千歳のまちの航空祭」が9月7日、市内の同基地で開催されました。同基地所属のF15戦闘機、政府専用機（B777型機）などの訓練飛行をはじめ、航空自衛隊の機体展示が自衛隊ファン、航空ファンを沸かせました。
当日はあいにくの曇り空で、雨がちらつく場面もありましたが、



ずらりと並んだF15戦闘機

F15戦闘機の機動飛行、ステルス戦闘機F35の訓練飛行、救難ヘリコプターから隊員がロープで下りるラッピングなども展開。地上には戦闘機や輸送機などが展示され、ペトリオット等の対空防衛装備品など、この機会にしか間近で見られない自衛隊機や装備品を前に、記念写真する家族連れの姿も。道内各地、そして道外からも多くの人が集まった航空ファンが、目を輝かせて空自千歳基地が誇る装備品と訓練の成果を目に焼き付けていました

管制業務体験や航空機への試乗、兵装展示、除雪機材展示のほか、千歳機甲太鼓、空自北部航空音楽隊、ANAオーケストラによる演奏も行われ、航空祭に華を添えました。

同時開催のグリーンベルト会場では、VRゴーグルによる仮想現実での飛行体験、スタンプリィ抽選会も行われました。

秋の味覚と釣りを満喫

人気のサケ鍋、今年も登場

ステージイベントも会場盛り上げる

第46回インディアン水車まつり

秋の味覚を楽しむ第46回インディアン水車まつりが9月13、14日、道の駅サーモンパーク千歳で開催されました。人気のサケ鍋が提供されたほか釣り堀やステージイベントが訪れた人を楽しませました。



サケ鍋を買い求める来場者



ヤマメの放流された釣り堀には多くの家族連れが集まりました

サケの遡上が本格化するのを前に、千歳川とサケ、道の駅に親しんでもらう恒例企画。千歳川に設けるサケ捕獲用のインディアン水車の活用がフル稼働する前に開催されています。会場で販売されたサケ鍋は、サ

ケと野菜がふんだんに使われた逸品。味噌仕立ての味わい深いメニューを買い求める人で、ブースには列ができました。

いくら丼、サーモンいくら丼も人気を集めたほか、会場内では露店が焼き鳥やフライドポテトを販売するなど、縁日の華やかさがありました。

付近の小川にはヤマメが放流された釣り堀も用意。家族連れが釣り糸を垂らして当たりが来るのを待ちました。川にはサケも放たれ、その大きさを子供達が歓声を上げていました。

ステージではエレクトーン、千歳機甲太鼓、陸上自衛隊第7師団音楽隊、千歳吹奏楽団などが出演して演奏を披露。千歳アイヌ文化伝承保存会による古式舞踊や、サモン君〇×クイズ、丸太切りレースも会場を盛り上げました。

市民夏まつりフィナーレ 納涼盆踊り大会で締めくくる



夏まつりの終幕を飾った千歳市民納涼盆踊り大会

千歳市民夏まつりのフィナーレを彩る千歳市民納涼盆踊り大会が8月19、20両日、市内グリーンベルトのおまつり広場をメイン会場に開かれました。20日には20団体、約1100人が中心市街地を練り歩き、夏祭りの最後

を盛り上げました。

観光連盟も加入する実行委主催。今年で49回目を迎える恒例の催しです。会場では北海盆唱や千歳音頭に合わせて、組み立てられたやぐらの周りを市民が踊りました。

パレードには地元企業や行政、自衛隊、団体などが参加。グリーンベルトのおまつり広場を出発点に、花火を合図にパレードを開始しました。沿道には多くの市民が踊り手たちがやって来るのを待ち、仕事帰りの人も足を止めていたほか、飲食店ではイスとテーブルを店の前に出して、飲み物を片手に楽しむ姿も見られました。

参加者は浴衣や法被などのほか、人気アニメの仮装が観衆を楽しませました。あでやかな着物を見にまつて花魁に扮した男性参加者もいるなど、思い思いのパフォーマンスが注目を集めていました。

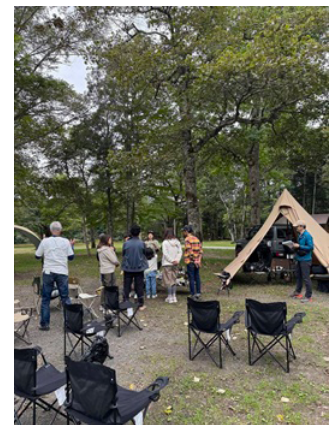
体験講座「防災×キャンプ」開催 アウトドア知識・技術で災害乗り切ろう

観光連盟は、災害発生を想定して、アウトドアの知識・技術を生かした対応方法を学ぶ体験型講座「防災×キャンプ」を9月20日、美笛キャンプ場（指定管理者・観光連盟）で開催しました。

災害時や緊急時に役立つ知識・スキルを身に付けてもらうと初企画し、キャンプインストラクターで、ポッシビリティ・ラボ代表の川



タープなども展示され、家族が防災について学びました



手有沙さんが講師を務めました。会場ではワークショップを通して、災害の備えについて川手さんが説明。寝袋や懐中電灯、テント、持ち運びできる非常用電源、災害用・非常用トイレ等の用品を展示したほか、長期保存食の試食も行いました。

2018年9月6日に発生した胆振東部地震では大規模停電の中で炭とこんろで火を起こし、懐中電灯の明かりで過ごした人も多いため。キャンプやバーベキューの用品を所有していると、さまざまな緊急事態でも活かせるほか、用意が災害発生に対する不安の解消にもなります。

開催にあたり、札幌日清食品、北海道キッコーマン、カルビー、田中製菓、岩塚製菓、北海道伊藤園の各社にご協力・ご協賛をいただきました。事業へのご理解に深く感謝申し上げます。

多彩な催しで

にぎわい創出

空と川のアウトドアフェス

5イベント一堂に開催

「空と川のアウトドアフェス テイバル2025」が9月7日、グリーンベルトのつどいの広場、おまつり広場、わんぱく広場、親水公園で開催されました。中心市街地に活気をもたらす「ちとせ未来ビジョン」の実現に向けて、官民の多様な主体が連携して開催する野外イベントです。

「千歳のまちの航空祭 グリーンベルト会場」（主催航空自衛隊千

歳基地」に合わせた開催で、「まいふれフェスタVol.4」（まいふれ祭実行委員会）、「ちとせカルチャーPARK」（千歳市役所）、「はじめましてマルシェVol.5」（じもじよき・netちとせ）、「カラフルストリート」（千歳市）をグリーンベルトのエリアごとに開催しました。



さまざまな店が会場に並び、訪れた人の目を引きました

会場では物販のテントやキッチンカーが並び、ステージでも音楽の演奏やダンスなどが披露されました。道路にチョークでアートを描く企画、VRゴーグルでの飛行体験、焚火でのマシュマロ焼きなど、様々な企画が展開。多彩な団体が関わり、それぞれの特色や持ち味を発揮するフェスティバルとなりました。

航空祭からの帰りに、千歳駅に向かう途中に足を伸ばした来場者もありました。それぞれのエリアで違う魅力が楽しめるイベントには多くの市民が集い、買い物や催しを楽しんでいました。



ステージイベントも多彩に繰り広げられました

イベント情報

▼千歳アイヌフェスタ
（2025年10月4、5日、サケのふるさと千歳水族館、道の駅サーモンパーク千歳）千歳アイヌ協会、千歳アイヌ文化伝承保存会が主催。水族館と道の駅の協力で開催します。サケを捕る伝統漁具マレクの実演・体験、古式舞踊の披露、鹿角や木材をつかったワークショップも要予約で実施。予約は千歳水族館ウェブサイトから。

▼第2回千歳・コスプレ・アニメフェスティバル「チトコス」
（10月18日、グリーンベルトを主会場に開催）同実行委主催、観光連盟など後援。コスプレイヤーたちが中心市街地の店舗やスポットで撮影し、ステージパフォーマンスを開催。ビンゴ大会も行いう予定。一般観覧無料です。

編集後記

9月半ば、千歳市泉郷の泉郷神社の秋季例大祭に足を運びました。富山県から入植者が1896年（明治29年）ごろに伝えたと言われる「泉郷獅子舞」を見学するためです。

布の中で獅子を動かす複数の人と、獅子を討ち取る「花持ち」という役目の踊り手が、躍動的な踊りを繰り広げます。境内で披露される舞は秋の情緒を感じ、継承に取り組む皆さんの努力に頭が下がります。

「北海道は歴史が浅い」と言われます。本当にそうでしょうか。しかし、縄文時代があり、アイヌ文化があり、そして泉郷獅子舞をはじめ、生きる人びとが営む北国の文化があります。千歳の地域の豊かさに思いをはせる秋です（ひ）